



神経発達症児者の発達支援に関する研究

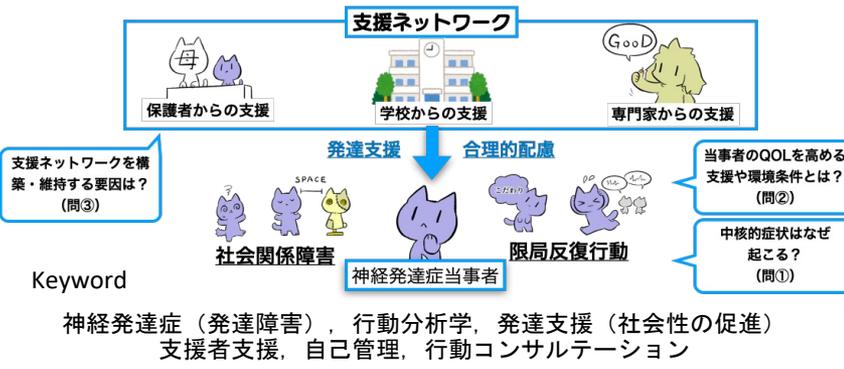
[キーワード: 神経発達症群、発達支援、家庭・学校コンサルテーション、応用行動分析]

准教授 榎本 拓哉

<研究の概要>

『神経発達症(旧:発達障害)児者の社会適応, 生活の質(Quality of Life: QOL)を高めるための条件を明らかにし, より効果的な支援方法を案出すること』を目標に, 行動分析学の枠組みから実証的な研究を行なっている。特に, ①ニューロダイバーシティの観点から理解を深め, ②当事者がより適応的に生活できる条件を, 環境-生活体の相互作用から行動を読み解く応用行動分析学の視点から検討している。さらに③神経発達症のある方を支える支援ネットワークの構築と社会実装を達成するために, 通信技術や行動計測などの工学的デバイスを活用した支援法略の開発と評価を行なっている。

①については, 神経発達症の中核的症候である社会関係障害, 限局反復的行動, 実行機能障害, 運動調整機能障害などに対して知覚・運動側面から支援研究を行なっている。②については, 神経発達児者の社会性/適応行動の促進に寄与する条件を, 主に家庭・学校環境から検証している。③については, 遠隔支援技術(Tele-Health)を利用した遠隔地行動コンサルテーションパッケージの開発・評価, ソーシャルイメージング技術による社会的相互作用の定量分析を行なっている。



<主要研究業績>

- ・大石幸二・青木啓・若井広太郎・藤島瑠利子・新城理奈・飯島徹・榎本拓哉(2022)知的障害を伴う自閉スペクトラム症(ASD)児における対人相互作用の変容—行動観察を基にした情動的交流あそびの効果評価—臨床発達心理実践研究, 17
- ・下山真衣(2022)「知的障害あるの人への心理支援」学苑社(第7章担当)
- ・会沢信彦(2022)「教師・保育者のためのカウンセリングの理論と方法」北樹出版(6章担当)
- ・Kitamura, Shishido, Enomoto, Kameda, Yamamoto, Kitahara (2019). Development of Multi-View Video Browsing Interface Specialized for Developmental Child Traini2019 12th Asia Pacific Workshop on Mixed and Augmented Reality (APMAR) 1-8.

<地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

- ・児童生徒の個に応じた学びを実現する遠隔通信技術を用いたアウトリーチの社会実装, 埼玉県熊谷市(共同研究)、2022年度
- ・幼稚園を基盤とした遠隔技術とVideo-Feedbackによる包括的保護者支援, 県北若竹学園(共同研究)、2011-13年度

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- ・神経発達症児者を支援する地域システムの実装研究

専門分野 : 臨床発達心理学(発達支援、応用行動分析学)

E-mail : enomoto.takuya@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7192

Fax : 088-656-7192

HP : <https://researchmap.jp/takuyaenomoto>

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/384996/profile-ja.html>

